

オンキヨーサウンド株式会社の事業紹介③

～ 加振器事業について ～

オンキヨーグループのオンキヨーサウンド株式会社（以下、オンキヨーサウンド）は、2021年1月29日付の「当社グループのご紹介について」^{※1}でお伝えしている通り、B2B市場へのスピーカー供給やOEM事業などを手掛けております。第3回目となる今回は、加振器の特長から、用途やラインナップ、その将来性などについてご紹介いたします。



加振器「Vibtone」

1. 加振器「Vibtone」とは

「Vibtone」は当社が扱う加振器の商品名です（以下、加振器はVibtoneとします）。

ご紹介させていただいている通り、オンキヨーグループは創業当初から現在に至るまで、長年に渡ってスピーカーユニットの開発・生産を行ってまいりました。スピーカーユニットは、事業紹介②^{※2}でもご説明させていただきましたが、紙製の振動板を使用し空気を震わせて音を発生させているため、開口部を設ける必要があること、水や湿度の影響を受けて音が変わってしまったり、破損につながるケースもでてくるため、屋外などで利用したい場合は課題がありました。Vibtoneは、外装パネルなどを振動させることで音を発生させるため、水滴などの影響を受ける屋外であったり、音のための穴をあけたくない場所などでの利用に適しています。以下、Vibtoneの特長や商品展開、採用事例などについてご紹介いたします。

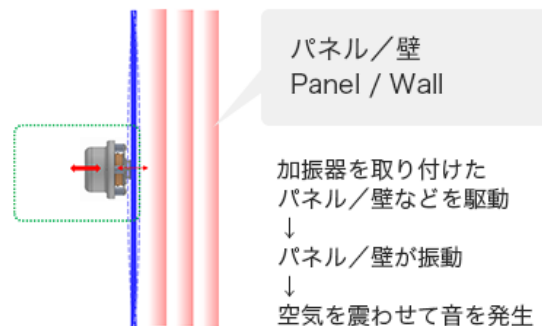
■ Vibtoneの構造について

Vibtoneは、取り付けるパネルや壁を振動させて音を発生させます。パネルや壁が、スピーカーでいう振動板の役割を果たすことで、音を発生させています。

外装のパネルなどを利用するため、音を出すための開口部を必要としないことに加え、水滴などの影響を受けない構造をとることができるようになります。

このような特長を有しておりますが、取付られる板やパネルなどの材質や形状によっても発生する音が異なるため、それぞれの用途に合わせた商品を取り揃えております。

Vibtone



Vibtone による音の仕組み

2. Vibtone の商品ラインナップ

Vibtoneは組み込まれる機器やパネルなどの材質に適した振動を与える必要があるため、それぞれの用途に応じた各種商品を取り揃えています。スマホや携帯ゲーム機など小型タイプのC-Vibtone、薄型のディスプレイなどの使用に適したF-Vibtone、車載用など高信頼性が求められる用途向けのT-Vibtone、硬質のパネルなどでご利用いただくに適したP-Vibtoneなど各種シリーズでの商品をご提供しております。

【図】 Vibtone の用途別ラインナップ

①	②	③	④	⑤	⑥
C-Vibtone (compact)	F-Vibtone (flat)	T-Vibtone (tough)	P-Vibtone (powerful)	A-Vibtone (active)	W-Vibtone (waterproof)
スマホ、携帯ゲーム機、骨伝導用等を想定した 小型タイプ	OLED 等ディスプレイ向けを想定した 薄型タイプ	車載用等を想定した 高信頼性タイプ	大口径ボイスコイル、強力磁気回路を用いた 高駆動カタイプ	Bluetooth、アンプを備えたオールインワンの アンプ内蔵タイプ	カバーで部品を覆った、 防水タイプ
					

特に、2020年10月の新体制移行後においては、上表⑤の「A-Vibtone」バッテリー内蔵 Bluetooth モデルを、本年1月（1月13日発表^{※3}）には ② F-Vibtone の薄型タイプ、④ P-Vibtone の高駆動カタイプの出荷を開始するなど、商品の拡充に努めております。

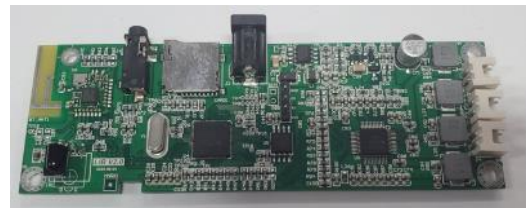


薄型タイプ F-Vibtone-10t



高駆動カタイプ P-Vibtone-76

更に、新たな用途でのご検討やご採用いただくにあたり、アンプなどの機能を取り扱ったことがないお客様や市場に対し、Vibtone の音質調整と設置を手軽に行えるアンプの開発^{※4}を行い、本年1月よりサンプル出荷を開始しました。



【Vibtone 用 Module】

このように、Vibtone をお使いいただくための商品開発を行っていくことで、製品への組み込むための提案を積極的に進めてまいります。

3. Vibtoneの市場拡大への取り組みについて

当社の主な対応市場も従来スピーカーユニットである車載市場のみならず、家電市場、建築市場において、パートナー企業との開発や導入を進めていただいております。また、2項にも述べた通り、商品の組み合わせやアンプなどの開発環境が整備されたことにより、対応できる新市場が増え、リーチできる商品が飛躍的に増えております。



Vibtone は、車載向けや TV・家電など比較的「音」に対して親和性が高い市場での採用が主でしたが、浴室などで音楽を楽しんでいただくためのお風呂スピーカーに始まり、建築向けのガラスを鳴らす^{※5} など、Vibtone の特長を活かした使用が広まっております。

また、Vibtoneの「音」と音を発生させるときの「振動」を利用して、発酵飲料・発酵食品などの熟成を促すための用途として、活用が広がり始めています。学術的な因果関係については、現在、研究中ではありますが、音楽を聴かせることにより発酵や熟成が進むことが期待されています。

日本酒の銘柄である「獺祭」と日本センチュリー交響楽団とオンキョーグループの共同プロジェクト^{※6}として、醸造時に音楽を聴かせるプロジェクトが進められ、「獺祭」向けの交響曲が制作され、この交響曲をVibtoneを介して醸造に使用されました。

更に、2020年11月25日（水）～27日（金）の期間で、リードエグジビジョンジャパン主催の「第5回ドリンクジャパン」へ、加振技術の展示を行いました^{※7}。ここでは、加振器による振動や音を利用することによる発酵への影響をご紹介します。飲食料品の製造で加振技術をお使いいただくことにより、新たな商品開発に向けたご提案を行ったことで、飲食業界の方々に向けたご提案を行いました。



トレイの底面に付けた加振器の効果を波紋で表現

Vibitone採用事例については、下記にてご紹介しております。

※採用事例

<https://onkyo.com/b-collabo/vibtone/>

以上のように、オンキヨーサウンドでは、加振器 Vibitone を通じ、ラインナップの拡充と共に新市場へのアプローチを行っていくことで、加振器事業の拡大を図ってまいります。

「オンキヨーサウンドの事業紹介④」では、AI/IOT 事業についてご紹介を行ってまいります。

【関連情報】

※1 当社グループのご紹介について（3）オンキヨーサウンド株式会社(2021年1月29日付)

https://onkyo.com/ir/ir_news/date/2020/20210129_JQIR_gaiyousetsumei_ONS.pdf

※2 オンキヨーサウンド株式会社の事業紹介②

～スピーカーの特長、事業のグローバル展開やサブブランド展開について～（2021年3月2日付）

https://onkyo.com/news/images/20210302_PR_ons2_speaker.pdf

※3 薄型、高駆動カタイプの加振器「Vibitone」サンプル出荷開始のお知らせ（2021年1月13日付）

https://onkyo.com/news/newproducts/products/2020/1225_338.html

※4 加振器「Vibitone」の駆動に適したアンプを開発・提供開始のお知らせ

～Bluetooth®を搭載、音も調整もワイヤレスで～（2020年12月15日付）

https://onkyo.com/news/newproducts/products/2020/1225_338.html

※5 A G C 新研究開発棟内オープンインベーション空間「AO」にガラスから音を出す加振器「Vibitone」採用のお知らせ（2020年11月30日付）

https://onkyo.com/news/images/20201130_PR_AOGallery.pdf

※6 日本センチュリー交響楽団×「獺祭」×オンキヨー共同制作プロジェクト始動（2020年2月17日付）

https://onkyo.com/news/images/2020/20200217_dassai_project.pdf

「獺祭」×オンキヨー 共同制作プロジェクト進行中 ～振動・音を利用した「食文化」への貢献～（2020年7月29日付）

https://onkyo.com/news/images/20200729_PR_Dassai-pj_shinkou.pdf

日本センチュリー交響楽団×「獺祭」×オンキヨー 共同制作プロジェクト進行中 –「交響曲 獺祭 ～磨～ migaki」を使った仕込みが開始 –（2020年11月25日付）

https://onkyo.com/news/images/20201125_projectDassai.pdf

日本センチュリー交響楽団×「瀬祭」×オンキヨー 共同制作プロジェクト –「交響曲 瀬祭 ～磨 migaki～」が完成 – (2021年2月24日付)

※7 ドリンクジャパンへの出展のお知らせ (2020年11月24日付)

https://onkyo.com/news/images/20201124_PR_drinkjapan.pdf

以上